

はじめに

名古屋大学農学部管理棟の西側に、六階建ての研究棟に達するほどの高さを持つ、三本の大樹がそびえ立っています。いずれも樹齢五〇年をこえるメタセコイアです。

これらは、現在では農学部のランドマーク的な存在ですが、最初に植樹されたのが東山キャンパスでもなければ名古屋市ですらなく、安城市であったことを知る人は意外に少ないのではないのでしょうか。

名古屋大学農学部は、一九五一（昭和二六）年、新制名古屋大学第八番目の学部として創設されました。一九九三（平成五）年に教養部を改組した情報文化学部はあるものの、名大では実質的に最も新しい学部です。なぜ最後に設置されることになったのでしょうか。

また、歴史の古さでは一步をゆずる農学部ですが、創設までの紆余曲折うよきよくせつや、草創期を安城市ですごしたことなど、他の学部にはない歴史を持っています。本書は、この農学部の誕生に至る道のりと、安城キャンパスでの一五年間をへて、現在の東山キャンパスに移転するまでの歴史を、愛知県や安城市など地元の動きを視野に入れながら、分かりやすくまとめたものです。